



Title	名誉教授金子幸彦略歴
Author(s)	
Citation	一橋論叢, 76(3): 338-339
Issue Date	1976-09-01
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/11688
Right	

名誉教授金子幸彦略歴

- 明治四十五年(一九一二年)
一月五日 和歌山市出身林波雄(一八七三—一九四六)および新潟市出身林ヒサ(一八八〇—一九四七)の次男として東京市新宿区牛込津久戸町に生まれる。
長姉中里フミ(一九〇三)、東京女子師範卒)、兄林貞一郎(一九〇五)、慶応義塾大学卒)、次姉海藤小枝(一九〇八)、淑徳高女卒)。
大正七年(一九一八年)
四月 東京市新宿区津久戸尋常小学校に入学する。
大正十三年(一九二四年)
三月 右を卒業する。
四月 私立早稲田中学校に入学する。
大正十四年(一九二五年)
五月 母方の金子姓をつぐ。
昭和四年(一九二九年)
三月 早稲田中学校を卒業する。
四月 東京外国語学校露語部文科に入学する。
昭和六年(一九三一年)
六月 治安維持法違反容疑により逮捕される。
九月 起訴留保にて釈放される。東京外国語学校より無期停学を命ぜられる。
十月 両親と共に千葉県市川市宮田に転居する。
昭和七年(一九三二年)
四月 右停学を解除され、一年下の級に復学を許される。
昭和九年(一九三四年)
三月 東京外国語学校を卒業する。
六月 東京逓信局嘱託となる。
昭和十二年(一九三七年)
四月 東京逓信局書記となる。
昭和十四年(一九三九年)
四月 逓信省電務局属となる。
五月 召集令状を受け入隊したが、即日帰郷となる。
昭和十七年(一九四二年)
五月 山本つくも(一九二二年東京市品川区生)と結婚。
昭和二十二年(一九四七年)
三月 逓信省電務局を退職する。

- 昭和二十三年（一九四八年）
四月 東京商科大学予科非常勤講師となる。
六月 東京都三鷹市井の頭に居を移し、現在に至る。
- 昭和二十四年（一九四九年）
四月 東京商科大学専門部非常勤講師を兼ねる。
同月 東京経済大学非常勤講師となる（昭和二十五年三月まで）。
- 昭和二十六年（一九五一年）
四月 一橋大学社会学部講師に任ぜられる。
- 昭和二十八年（一九五三年）
四月 北海道大学講師および同大学スラブ研究施設客員研究員に併任される（昭和四十七年三月まで）。
- 昭和二十九年（一九五四年）
四月 一橋大学社会学部助教授に任ぜられる。
- 昭和三十二年（一九五七年）
四月 一橋大学社会学部教授に任ぜられる。
- 昭和三十七年（一九六二年）
六月 ソ連作家同盟招待により一カ月間訪ソ。
- 昭和三十九年（一九六四年）
- 四月 東京農工大学非常勤講師となる（昭和四十年三月まで）。
- 五月 一橋大学前期部長に併任される（昭和四十一年五月まで）。
- 昭和四十二年（一九六七年）
六月 ソ連、チェコスロヴァキヤその他へ出張を命ぜられる（十一月まで）。
- 昭和四十四年（一九六九年）
五月 社会学部評議員に併任される（同年十二月解任）。
- 六月 長女春枝（昭和十九年生）結婚する。
- 昭和四十五年（一九七〇年）
四月 早稲田大学大学院文学研究科非常勤講師となる（昭和五十一年三月まで）。
- 同月 東京女子大学非常勤講師となる（昭和四十六年三月まで）。
- 昭和五十年（一九七五年）
四月一日 停年により一橋大学を退職する。
同月二日 一橋大学名譽教授の称号を受ける。